

教材・支援機器活用実践事例

【気持ちのコントロールができるようにするための指導】

	実施年度	平成28年度
授業について	教科名等	自立活動
	単元・題材名	気持ちのコントロール
	授業における教師のねらい	○相手に要求を伝えることができる。 ○状況に応じた行動を身につけることができる。
	授業における子どもの目標	○教室を出る時は行き先を告げ、戻ることができる。 ○授業中に他の教室に入らない約束を守ることができる。
子どもについて	学級・学校・学年	小学校 特別支援学級（知的） 3学年
	対象の障がい	知的障がい 自閉症
	授業の形態	個別指導
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	○衝動的な傾向があり、気になることがあると教室から出て行ったり、授業中に他の教室に入ったりすることがある。物の置き場所が変わると気になるなどの特性もある。視覚的な情報が入りやすいことから、カードによる支援を日々行っている。
教材 ・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	  <p>【好きなキャラクターの機関庫の掲示】（マグネットを貼った行き先カードを持って行かせることで、みんなが居場所を知ることができる）</p>   <p>裏面に教室に戻るようメッセージ</p> <p>【授業中、他の教室に入らない約束】 各教室の戸にはり、分かりやすいように支援</p>
	活用のねらい	○好きなキャラクターが揃っていないと気になるという特性を生かし、カードを戻すことを動機にしながら教室に戻るようにさせる。各学級でも同じ対応をしてもらい、約束を理解・意識させる。
授業における支援・教材の配慮	○カードを無くさないように、行った先での置き場所も決める。他の教室へ勝手に入ってしまった時は「授業中は入りません。休み時間はいいよ。」と声をかけてもらい、授業中は入らないことだけでなく、いつなら入れるかも伝えてもらうようにした。	
子どもの変容や評価	○最初はどこに行くかを聞かないとカードだけを持って行ってしまってもあったが、次第に自分からカードを持って「〇〇に行ってきます。」と伝えるようになった。自分の教室に帰り、カードも戻すことができた。現在はカードなしでも行き先を伝えることが増えてきたが、興奮した時に他の教室に入ってしまうことがある。落ち着かない時の気持ちのコントロールの仕方についても支援していきたい。	